

DREAMING No.14

令和6年12月12日
長崎市立福田小学校
学校だより
校長 寺田 成広

心を満たし、夢や願いを叶える学校 ～見つめよう 認めよう～

人権月間の取組を通して

11月11日から一昨日12月10日までを本校の「人権月間」と定めて、人権についての知識を身に付け、人権感覚が育つようにと、いくつかの取組を実施しました。もちろん人権教育は、ある期間のみで行うものではないのですが、私たちの日常の全ての言動がその対象で、身近にあるがゆえに学びの意識が薄らぐため、改めて意識する機会として月間を設定しています。

左の画像は、取組の一つである『ハートの木』です。低中高学年別に、ピンクのハートは、「友達の優しさや頑張り」に気付いた際に、グリーンの葉には、「相手を思いやる行動」がとれた際に書き込みます。月間が始まって間もなく、ハートや葉が次々に増えていきました。日常の中で、自分や相手の人権を大切にしていることを自覚する場となったと思います。

学級においても、期間中に必ず人権学習の授業を実施しています。子どもたちの発達段階や実態に応じたテーマを設定し、読み物資料をもとに話し合ったり、体験的参加型（ワークショップ型）で人権感覚や人権を配慮した言動のスキルを高めたりする学習です。取り上げるテーマとしては、同和問題や女性、子ども、高齢者、障害者、外国人への差別に関すること、いじめ問題、拉致問題、LGBTQ、他国への侵略、ネット空間での誹謗中傷など多岐にわたります。これらのことは社会全体の課題であり、大人も子どもも知識を得て、自身がどう動くかを考えねばなりません。時には、「家族内でテーマを決めてまじめに人権問題を語り合う機会」をつくってみることをお勧めします。

左の画像は、私が人権集会中の校長講話で使ったスライドです。人権を尊重する上で不可欠な「平等」と「公平」の意味を理解することをねらいとしました。

ウサギが拾ったドングリを、数が違う分け方で配っているスライドを示すと、子どもたちは「数が違うのは良くない。」「ネズミさんが嫌な気持ちになる。」などと反応しました。3人に同じ数ずつ配ったスライドを出して、「みんなが同じで、みんなが幸せになる、これが『平等』です。」と伝えました。

野球観戦中のスライドでは、「木箱を一つずつ配ったら小さい子が見えない。」「悲しそう。」と反応し、「小さい子に二つ配ったら良い。」と場面に合った考えを出しました。その後、「違いに合わせてみんなが幸せになることが『公平』です。」と続けました。締めくくり子どもたちへのメッセージとして黄色枠のスライドを見せて話を終わりました。

結びになりますが、今年度学校目標に追加した「心を満たし」とは、人間の五つの基本的欲求（生存、安全、所属・愛情、承認、自己実現）に応えることだと以前書きました。これらの欲求は、実は基本的な人権尊重の欲求とも言えると考えています。人は、本能的に「人として尊重されること」を欲して生きているのでしょう。それに十二分に応える学校でありたいと思っています。

